

厚生労働科学研究費補助金

第3次対がん総合戦略研究事業

**「QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究」
に関する研究**

平成22年度～平成25年度 総合研究報告書

研究代表者 江角 浩安

平成26(2014)年 5月

厚生労働科学研究費補助金

第3次対がん総合戦略研究事業

「QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究」

に関する研究

平成22年度～平成25年度 総合研究報告書

研究代表者 江角 浩安

平成26(2014)年 5月

厚生労働科学研究費補助金

第3次対がん総合戦略研究事業

「QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究」

に関する研究

平成22年度～平成25年度 総合研究報告書

研究代表者 江角 浩安

平成26(2014)年 5月

厚生労働科学研究費補助金

第3次対がん総合戦略研究事業

**「QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究」
に関する研究**

平成22年度～平成25年度 総合研究報告書

研究代表者 江角 浩安

平成26(2014)年 5月

厚生労働科学研究費補助金

第3次対がん総合戦略研究事業

**「QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究」
に関する研究**

平成22年度～平成25年度 総合研究報告書

研究代表者 江角 浩安

平成26(2014)年 5月

目 次

・総合研究報告

「QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究」に関する研究	-----	1
江角 浩安		

・研究成果の刊行に関する一覧表

・研究成果の刊行物・別刷（別冊2～5）

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）

総合研究報告書

QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究

研究代表者 江角 浩安 学校法人東京理科大学 教授

研究要旨

本研究プロジェクトは1)根治性を犠牲にせず機能温存、臓器温存を可能とする治療法の開発、2)がんの治療あるいは進展に伴って損なわれるQOLの向上のための治療法の開発、3)難治がんに対する低毒性の薬物療法の開発を目標としている。食道、頭頸部のがんに対する機能温存と根治性を両立した治療法、サルベージ法、リンパ浮腫など合併症を最小限にする治療法、ストーマの減少の機能温存手術の試み、IVRを用いたQOL回復法など臨床試験に繋ぎうる基盤技術を開発確立した。化学放射線療法、分子標的薬により侵される皮膚ケアを積極的に行い、副作用の低減と完遂率を上げるプログラムを作った。本研究組織で開発した低毒性抗腫瘍薬候補の作用メカニズムを明らかにした。抗がん剤投与最適化のためのバイオマーカー検査法を開発した。QOL評価指標確立の為国際的評価法の日本語版の開発、看護ケア、リハビリプログラムの導入と、患者・家族の視点からのQOL・治療法の評価を進めた。また、相談支援のあり方に関する再検討を進めた。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属

江角浩安 学校法人東京理科大学
林 隆一 国立がん研究センター東病院
井本 滋 杏林大学医学部付属病院
齋藤典雄 国立がん研究センター東病院
佐々木寛 東京慈恵会医科大学附属柏病院
荒井保明 国立がん研究センター中央病院
池田公史 国立がん研究センター東病院
武藤 学 京都大学大学院医学系研究科
全田貞幹 国立がん研究センター東病院
宮下光令 東北大学大学院医学系研究科
小松浩子 慶應義塾大学看護医療学部
木下寛也 国立がん研究センター東病院
土原一哉 国立がん研究センター
早期・探索臨床研究センター

A. 研究目的

本研究プロジェクトは、厚生労働省第3次対がん十力年戦略分野6の中で、医療経済、精神腫瘍、コミュニケーション患者支援に関わること以外の領域で、QOLの向上をめざしたがん治療法の開発をめざし、基盤的な技術・概念を生み出し、臨床導入を行う事を目的とする。基本的には1)根治

性を犠牲にせず治療に伴い失われる生体機能の最小化を可能とする機能温存、臓器温存を含めた新しい治療法の開発、2)がんの治療あるいは進展に伴って損なわれた生体機能、生活の質の回復・向上のための治療法の開発、3)がん治療やがんの進行の後にも残された機能の活用によるQOL向上の技術開発、4)がん治療に伴い傷害されるQOLは、臓器や進行度、治療法により多岐にわたるがQOLの評価法の開発を各研究課題と同時進行させることで、個別性を超えた評価を目指す。

B. 研究方法

1. 切除不能な進行腺がん患者に対する疼痛コントロールプログラムの開発とゲムシタピン不応性腺癌に対する莠子エキス GBS-01 の第二相試験を完遂し、低毒性で、QOLの高い治療法を確立する。更に、がん幹細胞様細胞の減少を通じてより根治性の高い薬物療法を確立する。
2. 食道、頭頸部領域早期がん発生メカニズム、下咽頭がん喉頭温存手術における表在進展の取り扱いおよび喉頭温存の臨床的基準を明らかにする事により機能温存の促進を図る。ま

た食道がん多発高危険度患者選択のための簡便な診断法・選別法を開発する。

3. 骨盤内臓全摘術回避し機能温存・再建手術の開発、適応、判断法を開発する。
4. 婦人科がん術後下肢リンパ浮腫予防手術の開発をランダム化比較試験で完成させ、さらにロボット手術の導入でリンパ管の問題を解決する。
5. 乳癌の術後機能温存療法の開発のため、ラジオ波焼灼療法の単施設第 II 相試験を行い整容性に関する満足のいく術式を確立する。
6. I V R に関する臨床試験、有痛性骨盤内腫瘍ラジオ波凝固療法の第 I/II 相試験は継続し、患者の QOL 工場のために継続中の臨床試験の活性化と見直しを行う。
7. 根治術後胸部食道がん患者の、患者と医師・看護師連携のもと、セルフモニタリング・身体活動・栄養摂取での回復促進「術後機能回復促進介入プログラム (STEP プログラム)」を構築し、更にその評価を行う。
8. 化学放射線療法、分子標的薬剤を含めた多くの薬剤でも皮膚症状が DLT になることがあり、積極的な管理プログラムが治療完遂率、QOL の向上に寄与するか否かを検討する。また、患者の皮膚ケアに関する多施設共同研究を通じて標準化と、普及の体制を作る。
9. HCC-18、PAN26、BIL21、HDC29、HFS-14 日本語版の開発に着手し一部は終了した。開発された評価指標の妥当性の検討を引き続き行う。その後、普及に向けた取り組みは各学会を巻き込んで行う。
10. 患者・家族相談支援の方法開発のため院外相談所などの特性を利用しあり方の検討をする。これからますますニーズのたかまる在宅医療、外来治療の支援に向け包括支援センターとの連携強化の取り組みを拡大する。
11. がん看護カウンセリングの有効性に係る研究を追加する。この事を通じて、診断時からの

緩和ケアの内実を作り上げる。

(倫理面への配慮)

- 1) IVR、再生医学、臓器温存、研究的要素を含む診療に関しては、ヘルシンキ宣言を遵守して作成したプロトコルを各施設倫理審査委員会 (IRB) の承認を得た上で試験を遂行している。また、個人情報保護法に対応し、被験者の人権を損なうことのないよう配慮している。
- 2) GBS-01 臨床試験は国立がん研究センター倫理審査委員会でのプロトコルの審査を受けた後 U M I N 臨床試験登録を行い、患者に十分な説明の後、文書で同意を得た。
- 3) 遺伝子解析を含む研究に関しては、国立がん研究センター倫理審査委員会に研究プロトコルの審査を受けた上で実施した。
- 4) 動物実験に関しては各施設の動物実験に関する倫理審査委員会の承認を得た上で行った。

C. 研究結果

- 1) がん細胞の微小環境への適応を標的にした新規抗癌剤アルクチゲニン (AIC-102) を約 10% 含有する牛蒡子エキス GBS-01 の Phase I/II 試験を終了し、高い安全性の確認と、臨床の有効症例を得た。これに従い、至適投与量の設定を行った。医薬品機構との事前相談、戦略相談を経て、がん研究センター東・中央両病院と、癌研有明病院にて Phase II 医師主導治験を実施している。予定の症例登録を予定より早く終わり経過観察している。一方この研究の間に、GBS-01 の有効成分であるアルクチゲニンにはヒト膵がん細胞 CAPAN-1、CD44、ESA 陽性のがん幹細胞集団に対する選択毒性が、in vitro、in vivo で認められた。動物実験では抗癌剤との併用で高い抗腫瘍性が認められた。また、アルクチゲニンは、ミトコンドリア複合体 I の阻害活性が見出され、メトフォルミンと高い類似性が認められ、根治を目指した POC 取得の臨床試験につな

げる事が出来た。

2) 咽頭表在がんの遺伝子発現解析で血管増殖因子が高率に発生進展に関わる事が分かった。これを指標にした予防法・治療法の検討を始めた。頸部郭清術後副神経麻痺の発生を軽減するために郭清範囲を縮小の為に臨床試験を目標症例 300 例で開始し、40 例まで集積した。また、咽頭表在性がんをより安全でかつ確実に低侵襲で行うために経口腔的に喉頭鏡を用いつつ内視鏡的に切除する術式を開発した。また、軟骨への浸潤を正確に評価するため、Dual Energy CT による軟骨浸潤を評価した。72 例に対して Dual Source CT 装置で撮影し、病理組織学的評価を行った。DECT 画像は、腫瘍、非骨化軟骨、ヨード造影剤を識別し、腫瘍浸潤部分は橙色、浸潤を受けていない非骨化軟骨や正常軟部組織は灰色となり、両者を明瞭に区別可能な画像が得られ、大きな進歩となった。

3) 本研究の一環として子宮頸癌、体癌のリンパ節郭清症例に対して無作為化試験「子宮頸癌および後腹膜開腹術の術後下肢リンパ浮腫改善に関する検討」を平成 20 年 8 月より開始した。その結果、後腹膜開放 vs 閉鎖無作為化試験は 221 人に呼び掛けを行い、

参加同意数は 200 人であった。200 人中、中止例は 33 人であった。後腹膜開放は下肢リンパ浮腫の発生を予防はできなかったが、リンパ嚢胞は減少した。一方、鼠径上リンパ節の郭清を回避するとリンパ浮腫の頻度は明確に低下する。その安全性に関する検討を行うとともにロボット外科を用いたリンパ管吻合の導入への検討を始めた。

4) TPE の適応である臨床的に前立腺を主とした下部尿路系臓器浸潤が考えられる下部直腸進行癌症例において、可能な限り膀胱温存や肛門機能温存を計る手術術式 32 例の原発直腸癌症例に実施した。手術の内訳は肛門括約筋温存(SPO)と膀胱尿道吻合(CUA):20 例、直腸切断(APR)と CUA:7 例、APR と膀胱瘻(CS):5 例、であり、結果として Stoma-less:20 例、Single Stoma:7 例、Stoma+CS:5

例となった。Surgical margins は全例で陰性であり手術関連死を認めなかった。これらの 5 年生存率は約 76%を示した。しかし主に遠隔転移再発(肺転移が最多)のため、無病 5 年生存率は 59%であった。CUA の 27 例中 11 例(41%)に縫合不全を認めた。特に APR+CUA 例では、7 例中 5 例(71%)に CUA の縫合不全を認めた。術後 1 年以上経過例の排尿機能では、全例に自排尿が可能で、IPSS スコアは 9(中央値)を示した。また、IPSS の QOL スコアも 2(中央値)を示した。SPO 例の排便機能は、以前の報告と同様であり、m-FIQL スコアは 52(中央値)を示した。また本手術例全体の SF-36 による QOL 調査では PCS(身体的健康)は国民標準偏差よりも低い傾向を示すが、MCS(精神的健康)はほぼ同等であった。膀胱・尿道吻合の縫合不全対策として、吻合部に回腸 flap を付加した臨床試験を計画し、H25 年 2 月の研究倫理審査委員会で承認され、現在、この臨床試験が進行中である。

5) 1 期乳癌を対象にラジオ波焼灼治療の単施設第 2 相試験が進行中だが、焼灼の程度は MRI での評価が有用と分かった。単施設でのラジオ波焼灼治療の第 II 相試験において、乳房変位率は、6 ヶ月と 12 ヶ月で 0.27 と 0.29 であり変位は小さかった。観察期間中央値 34 ヶ月時点で全例無再発健存中であった。多施設共同での第 II 相試験は、2014 年 3 月時点で 1 step での完全焼灼率を検討する 9 例が登録され、採取された組織は NADH 染色法で全例が完全焼灼と判定された。現在、症例登録を継続中である。

6) 頭頸部領域での化学放射線治療における皮膚炎管理プログラム、皮膚炎 grading アトラス作成子前向き試験開始した。非固着性創傷被覆材モイスキンパッドを用いた保湿療法の開発を並行して始めた。一方、欧州 5 施設のセンチネルリンパ節転移陽性症例 675 例を元にロジスティック回帰分析から腋窩リンパ節 4 個以上の転移予測式を作成した。その因子は、施設によるリンパ節 4 個以上陽性症例の浸透率、腫瘍径、節外浸潤、センチネ

ルリンパ節の転移個数と非転移個数であった。次に、同 5 施設 367 例の internal validation と当院を含む日欧 8 施設 760 例の external validation を行った結果、それぞれの AUC は 0.766 と 0.774 であり、予測式の有用性が示された。また、皮膚炎管理プログラムを看護師主導管理法として客観化するためアトラスの作成、学会レベルでの討論とツール作りを開始した。アトラスに必要な写真は 600 枚収集した Grading を行った結果 157 枚が典型的な写真として採用された。中でも 9 名の患者 100 枚の写真は経時的な観察が可能であった。カラーコピーの色合いにより grading が変化することが明らかになり、PC 上での写真から刷本する時点で綿密な打ち合わせが必要であることが判明した。

7) 食道切除術後の患者指導の教材および「食道切除術後患者 8 割が「つかえ」を訴え、4 割がブジーを受けていた。約 4 割に反回神経麻痺が見られ狭窄を含めリハビリの必要性が高いことが分かった。H24 年度は「術後機能回復促進介入プログラム (STEP プログラム)」を構築した。STEP プログラムは術前からのセルフモニタリング、身体活動、摂食・嚥下に関するセルフケア指導及び退院後の看護師による外来フォロー (退院後 2 週目、3 ヶ月目、6 ヶ月目) から構成される。H25 年度は、STEP プログラムの 実行可能性の検討及び、評価指標の開発、STEP に関わる看護師に対する講習会の評価を試みた。結果は、28 名の患者が登録され、退院 2 週間までの高い参加率、継続率及びプログラムの高い理解度、継続希望で推移し、実行可能性が高いことが示唆された。今後の大規模研究に向けた評価指標として、身体活動、QOL、抑うつ等を検討し、術後の経時的な変化を確認し、年齢、抑うつ、術後のイベントなどが回復に影響を与えていることが示唆された。

8) HCC18 は肝細胞がん根治術後の患者 127 名 (回収率 99.2%) の QOL の関連要因の検討では、抑うつあり、Child-Pugh 分類 B/C、KPS80 未満の患者

は QOL の点数が低かった。PAN26 の分析対象者は 75 名であった。KPS が悪い群は殆どの尺度で QOL が統計的に有意に悪く、尺度化成功率は 100% であった。クロンバックの 係数は 0.39~0.65 であり、再テスト信頼性の 係数は全対象者で 0.22~0.64 であった。PAN26 と FACT-Hep の多くの類似尺度間で想定通りの相関がみられた。関連要因の検討では、腭頭部癌および黄疸処置をうけた患者、化学療法中の患者、抑うつありの患者は QOL が悪い尺度がみられた。BIL21 に関するパイロットテストは問題なく終了し、国際的な計量心理学的検討研究に参加した。現在の症例集積数は 1 例である。EORTC QLQ-HDC29 日本版の分析対象者は 114 名であった。内的整合性を示すクロンバックの 係数は 0.55 から 0.88 であり、併存妥当性は EORTC-QLQ-C30 とのスピアマンの相関係数で -0.68~0.58 であった。再テスト信頼性を示す級内相関係数は 0.71 から 0.93 であった。皮膚急性 GVHD の既往による違いでは、消化器症状、不安・心配、家族、皮膚、物事のドメインで有意な得点の差があった。FACT-BMT 日本版の分析対象者は 114 名であった。内的整合性を示すクロンバックの 係数は 0.78 であり、併存妥当性は FACT-G とのスピアマンの相関係数で 0.33~0.87 であった。再テスト信頼性を示す級内相関係数は 0.45 から 0.90 であった。皮膚急性 GVHD の既往による違いでは、サブスケール全体の得点で有意な得点の差があった。EORTC QLQ-HDC29 日本版と FACT-BMT 間のスピアマンの相関係数は 0.33~0.87 であった。FACT-BMT を用いて造血細胞移植後の QOL への関連要因を検討した結果、移植後年数、入院回数、HADS の抑うつ・不安それぞれのドメインが有意に関連した。HFS-14 の分析対象者は 187 名であり、再調査の分析対象者は 80 名であった。内的整合性を示すクロンバックの 係数は 0.87 であり、併存妥当性は Skindex-16、DLQI、EORTC-QLQ-C30 とのスピアマンの相関係数はそれぞれ 0.65、0.68、0.41~0.55 であった。再テスト信頼性を示す級内相関係数は

0.87 であった。臨床的妥当性を示す CTC-AE のグレード 0・1 と 2・3 の比較、出現部位が手足のいずれかと両方であるケースの比較はそれぞれ有意な差がみられた (P=0.001)。Skindex-16、DLQI も同様に信頼性・妥当性を有することが示されたが、HFS-14 のほうが QOL 尺度との相関が高く、CTC-AE や出現部位などの臨床的妥当性においても大きな差が得られたことから、手足症候群に関連した QOL を測定する尺度としては HFS-14 が最も有用であると考えられた。

9) JIVROSG で QOL 向上に寄与する可能性をもつと判断された 5 つの緩和 IVR のランダム化比較試験を進行中。 有痛性骨盤内腫瘍に対するラジオ波凝固療法の第 I/II 相試験(JIVROSG-0204)、 難治性腹水に対するシャント治療の有効性を評価するランダム化比較試験 (JIVROSG-0803)、 有痛性悪性骨腫瘍の疼痛緩和に対する経皮的骨形成術の有効性を評価するランダム化比較試験 (JIVROSG-0804、 がんによる消化管通過障害に対する経皮経食道胃管挿入の有効性を評価するランダム化比較試験(JIVROSG-0805)、 悪性大静脈症候群に対する金属ステント治療の有効性を評価するランダム化比較試験(JIVROSG-0807)の 5 課題で有り、それぞれ進行中である。

10) 院外型がん患者・家族総合支援センターでの年間約 800 - 1000 件の相談をするとともに、地域の特に在宅医療の調整の方法を検討開始した。がん患者・家族に関する福祉従事者からの相談内容として合計 10 カテゴリーが同定された。【がん患者が在宅で利用出来る医療資源】としては、「がん患者の訪問診療・訪問看護を行える診療所、訪問看護ステーションを教えてほしい」、「がん患者の訪問リハビリテーションをしてもらえる施設を教えてほしい」、「自費で家事援助をしてもらえるサービスを教えてほしい」があげられた。【終末期がん患者が入院・入所できる施設】としては、「認知症を合併した終末期がん患者が入院・入所出来る施設を教えてほしい」、「中・長期的にが

ん患者の入院が可能な病院を教えてほしい」、「看取りを受け入れてくれる地元の病院を教えてほしい」、「がん患者のレスパイト（介護者の休養のための一時的な入院・入所）を受け入れてくれる施設を紹介してほしい」があげられた。【がん患者・家族の精神心理的ケア】としては、「がん患者の精神的問題について相談できる医療機関を教えてほしい」、「患者家族の精神的な問題への対応を教えてほしい」、「がん患者の心理とそのケアについて教えてほしい」、「がんを告知されていない患者への対応を教えてほしい」、「アルコール依存を合併しているがん患者への対応を教えてほしい」があげられた。【がん患者のケアプラン作成】としては、「初めてがん患者を担当することになったので、ケアプランのポイントを教えてほしい」、「がん患者に必要な医療処置について教えてほしい」があげられた。【治療病院への連絡】としては、「退院してきた患者についての情報を得たいときに病院の誰に連絡をとればいいのか」、「患者・家族が病院に医師から詳しい説明を希望しているが、主治医に連絡をとってその旨を伝えてもいいか」、「どんな介護サービスを提供するのがいいか、病院の医師の意見を聞きたい」があげられた。【在宅医療に係る経済的問題】としては、「在宅医療に係る費用を教えてほしい」、「在宅医療に係る費用の助成制度について教えてほしい」があげられた。【がん患者の患者会、家族会】としては、「がん患者の患者会を教えてほしい」、「がん患者の家族会を教えてほしい」があげられた。【福祉従事者へ教育】としては、「福祉従事者へのがん医療・在宅医療に関する教育をお願いしたい」、「介護福祉専門員で終末期がん患者に関するケアマネジメントの勉強会を開催したいと考えているが、ポイント、資料等を教えてほしい」があげられた。【その他】としては、「非がんの緩和ケア、特に痛みについて対応してもらえる医療機関を教えてほしい」、「ショートステイを利用したいがん患者はどの程度いるかニード

を教えてほしい」があげられた。今後、地域包括支援センターが重要な役割を果たすと考えられるが、従来包括支援センターはがん患者を余り扱ってこなかった経緯があり、これらに対する対応策を具体的に提示することは重要なことであると考えられた。

D. 考察

1) 低毒性の薬物療法の確立を目指し、がん微小環境への適応反応を標的としたアクチゲニン高含有製剤 GBS-01 の臨床導入で、Phase I を終え、医師主導治験として Phase IIA に導出した。抗腫瘍効果はがん組織微小環境に依存して居ると考えていたが、その作用機序の解析を続けると共に、最適化も目指した。膵臓がん細胞での幹細胞様細胞に特に強い毒性を示すことが明らかになった。低毒性で更に根治を目指すことの出来る化学療法レジメン開発の可能性が出てきた。また、がん微小環境への適応反応が標的になり得ること、微小環境ががん幹細胞の重要な要因であることも間接的に明らかにした。臨床開発としては、ゲムシタピン、S-1 等との併用試験などで根治を目指す治療開発が具体的に出来る可能性がある。

2) ストーマの回避・減少は QOL 向上に大いに貢献するが、従来直腸癌の尿路浸潤があるものは内臓骨盤全摘が標準であったが、32 例中 29 例と多くの症例でこれを回避できることを示すことが出来た。婦人科手術後の下肢リンパ浮腫回避の為に後腹膜解放対閉鎖の比較臨床試験は大きな差を認めなかった。リンパ管吻合や、鼠径部のリンパ節廓清回避などの別の手立てが必要であることが分かった。ロボット外科の導入も一つの方策である。

3) NBI 導入で頭頸部早期がんの診断基準が確立できた。この治療として、内視鏡の導入を行ってきたが、更に喉頭鏡を併用しより確実な外科処置の出来る ELPS 手術 (Endoscopic laryngo-pharygeal surgery) を開発した。機器の開発等も進めている。この方法の導入で、より危

険性の少ない術式が確立出来た。また、進行がんへの進展を臨床的予防として実践する方法の開発も急務である。

4) 食道がん術後患者の多くに消化管通過障害の症状と BMI の低下が認められた。食欲改善を含めリハビリテーション法の社会的なニーズは大きい。グレリンの研究班とも共同しこの問題に有効な対策を開発する必要がある。此の研究班では独自に、主に看護師による術後リハビリプログラムを開発し、その有効性の検討までたどり着いた。今後一層研究を進め教育プログラムを普及していく必要もある。

5) 症状緩和 IVR は、症例登録に苦労するものもあるが、具体的に保険診療につながっているものも出ている。

6) QOL の尺度の日本語版開発続けてきた。最近の低分子阻害薬、抗体治療薬を含め特に増加している皮膚症状などの対策に手足口症候群評価尺度 HFS-14 日本語訳などまもなくバリデーションが終わる予定である。

7) 急速に増加するがん患者対策を含め、外来通院治療型、在宅医療の体制の確立が急務である。この実現のためには医療・介護・生活支援等を一体的に提供出来る体制として地域包括支援センターが期待されるが多くの問題がある。院外型相談支援センターを運営した経験の中なら、包括支援センターで困難を感じる症例を類型化し FAQ を作ることが出来れば特に終末期の医療に大いに貢献すると考えられる。

E. 結論

がん患者の保持すべきあるいは改善すべき QOL の低下は個別性が高い。病変の部位、程度、特徴により病変そのものによる QOL の低下も、治療に伴う解剖学的喪失或いは機能的喪失も異なる。機能を保持する事、失われた機能を再建する事、代償する事などを中心に研究してきたが、医療側の視点での研究が中心であった。患者側からの評

価を、国際的なQOLの評価尺度を導入することで充実する必要がある。本研究班では治療法を緩和医療の観点から作り直す作業を行ってきた。患者側からの評価をよりいっそう取り入れた試みを看護や、多職種の観点も取り入れ強化する必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

(研究成果の刊行に関する一覧表に記載)

H. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

1)江角浩安、与茂田敏、三好千香、門田重利
アルクチゲニン高含有ゴボウシエキス及びその製造方法

特許番号 第 4963738 号

2)荒井保明、酒井慎一
腹腔 - 静脈シャント用ステント
PCT/JP2011/053468

3)武藤 学、江副康正、堀松高博
生体検査装置および生体検査方法
特願 2011 040279

4)全田貞幹
看護師が DeCop を用いる場合に技術料を取得できるか (申請中)

5)江角浩安 他
アルクチゲニン高含有ゴボウシエキス及びその製造方法
特願 2009 079590

6)江角浩安 他
アルクチゲニン高含有ゴボウシエキス及びその製造方法
PCT/JP2010/051701

7)江角浩安、三好千春、大窪敏樹、布施貴史、与茂田敏、川島孝則、門田重利

アルクチゲニン含有ゴボウシ抽出物およびその製造方法

特願 2010 215118

8)江角浩安、池田公史 他

抗癌剤

特願 2012 069964

9)荒井保明

経頸静脈経肝的腹腔 - 静脈シャント造設術に用いる TTPVS カテーテルについて

(製造企業より日、独、伊、仏、米に申請中)

10)江角浩安、三好千春

アルクチゲニン含有ゴボウシ抽出物及びその製造方法

特願 2012 515281

11)武藤 学、青山育雄、上坂亜紀、杉村真理子、田中克之

呼気採取袋及び呼気採取セット

特願 2013 027027

12)武藤 学、青山育雄、田中克之、花田真理子
終末呼気を利用する高精度なアルデヒド分解酵素活性遺伝子型判別方法、扁平上皮癌発生危険度 判定方法、扁平上皮癌発生危険度判定装置、及びプログラム

特願 2013 227301

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌（外国語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Onozuka H, Tsuchihara K, <u>Esumi H.</u>	Hypoglycemic/hypoxic condition in vitro mimicking the tumor microenvironment markedly reduced the efficacy of anticancer drugs	Cancer Sci.	2010.111 1/j. 2011.018 80.x.	1349-7006	2011
Bando H, Tsuchihara K, Yoshino T, Kojima M, Ogasawara N, Fukushima H, Ochiai A, Ohtsu A, Esumi H.	Biased Discordance of KRAS Mutation Detection in Archived Colorectal Cancer Specimens Between the ARMS-Scorpion Method and Direct Sequencing	Jpn J Clin Oncol.	41(2)	239-44	2011
Ogasawara N, Bando H, Kawamoto Y, Yoshino T, Tsuchihara K, Ohtsu A, Esumi H.	Feasibility and Robustness of Amplification Refractory Mutation System (ARMS)-based KRAS Testing Using Clinically Available Formalin-fixed, Paraffin-embedded Samples of Colorectal Cancers	Jpn J Clin Oncol	41(1)	52-6	2011
Koh HJ, Toyoda T, Fujii N, Jung MM, Rathod A, Middelbeek RJW, Lessard SJ, Treebak JT, Tsuchihara K, Esumi H, Richter EA, Wojtaszewske JFP, Hirshman MF, Goodyear LJ.	Sucrose nonfermenting AMPK-related kinase (SNARK) mediates contraction-stimulated glucose transport in mouse skeletal muscle	Proc Natl Acad Sci U S A.	31;107(3 5)	15541-6	2010
Tomitsuka E, Kita K, Esumi H.	The NADH-fumarate reductase system, a novel mitochondrial energy metabolism, is a new target for anticancer therapy in tumor microenvironments	Ann N Y Acad Sci.	1201	44-9	2010
Li F, Awale S, Tezuka Y, Esumi H, Kadota S.	Study on the constituents of Mexican propolis and their cytotoxic activity against PANC-1 human pancreatic cancer cells	J Nat Prod.	23;73(4)	623-7	2010
Momose I, Ohba S, Tatsuda D, Esumi H, et al.	Mitochondrial inhibitors show preferential cytotoxicity to human pancreatic cancer PANC-1 cells under glucose-deprived conditions	Biochem Biophys Res Commun.	392(3)	460-6	2010

研究成果の刊行に関する一覧表

Hayashi T, Muto M, Hayashi R, et al.	Usefulness of Narrow-band Imaging for Detecting the Primary Tumor Site in Patients with Primary Unknown Cervical Lymph Node Metastasis	Jpn J Clin Oncol	40(6)	534-41	2010
Ebihara E, Kishimoto S, Hayashi R, et al.	Window resection of the trachea and secondary reconstruction for invasion by differentiated thyroid carcinoma. Auris Nasus Larynx	Auris Nasus Larynx	38	271-375	2011
Tahara M, Minami H, Hayashi R, et al.	Phase I trial of chemoradiotherapy with the combination of S-1 plus cisplatin for patients with unresectable locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck	Cancer Science	102(2)	419-24	2011
Daiko H, Hayashi R, Sakuraba M, et al	A Pilot Study of Post-operative Radiotherapy with Concurrent Chemotherapy for High-risk Squamous Cell Carcinoma of the Cervical Esophagus	JJCO	41(4)	508-13	2011
Miyamoto S, Sakuraba S, Hayashi R, et al.	Free Jejunal Patch Graft for Reconstruction After Partial Hypopharyngectomy With Laryngeal Preservation	Arch otolaryngol Head Neck Surg	137(2)	181-186	2011
Aihara T, Takatsuka Y, Ohsumi S, <u>Imoto S</u> , et al.	Phase III randomized adjuvant study of tamoxifen alone versus sequential tamoxifen and anastrozole in Japanese postmenopausal women with hormone-responsive breast cancer: N-SAS BC03 study	Breast Cancer Res Treat	121	379-87	2010
Shishido-Hara Y, Kurata A, <u>Imoto S</u> , et al.	Two cases of breast carcinoma with osteoclastic giant cells: are the osteoclastic giant cells pro-tumoural differentiation of macrophages?	Diagn Pathol(Online)	5		2010
Hashimoto H, Shiokawa H, Funahashi K, <u>Saito N</u> , et al.	Development and validation of a modified fecal incontinence quality of life scale for Japanese patients after intersphincteric resection for very low rectal cancer	J Gastroenterol.	45	928-35	2010.

研究成果の刊行に関する一覧表

Ito M, <u>Saito N.</u>	The Authors Reply	Dis Colon & Rectum	53	958-9	2010
<u>Saito N</u> , Suzuki T, Tanaka T, et al.	Preliminary experience with bladder preservation for lower rectal cancers involving the lower urinary tract	J Surg Oncol.	102	778-83	2010
Shiomi A, Ito M, <u>Saito N</u> , et al.	Diverting stoma in rectal cancer surgery. A retrospective study of 329 patients from Japanese cancer centers	Int J Colorectal Dis.	26	79-87	2011
Yoneyama Y, Ito M, <u>Saito N</u> , et al.	Postoperative Lymphocyte Percentage Influences the Long-term Disease-free Survival Following a Resection for Colorectal Carcinoma	Jpn J Clin Oncol	41(3)	343-7	2011
Matsumoto N, Umezawa T, Sasaki T, <u>Sasaki H</u> , et al.	Clinical and Prognostic Value of the Presence of Irregular Giant Nuclear Cells in pT1 Ovarian Clear Cell Carcinoma	Pathl.Oncol.Res	17	605-611	2011
Sone M, <u>Arai Y</u> , Shimizu T, et al.	Phase I/II multiinstitutional study of uterine artery embolization with gelatin sponge for symptomatic uterine leiomyomata	Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group study. J Vasc Interv Radiol.	21	1665-71	2010
Sakamoto N, <u>Arai Y</u> , Takeuchi Y, et al.	Ultrasound-Guided Radiological Placement of Central Venous Port via the Subclavian Vein	A Retrospective Analysis of 500 Cases at a Single Institute. Cardiovasc Intervent Radiol.	33	989-94	2010
Inaba Y, <u>Arai Y</u> , Yamamura H, et al.	Phase I/II study of hepatic arterial infusion chemotherapy with gemcitabine in patients with unresectable intrahepatic cholangiocarcinoma (JIVROSG-0301)	Am J Clin Oncol.	34	58-62	2011
Nakachi K, Furuse J, Kinoshita T, <u>Ikeda M</u> , et al.	A phase II study of induction chemotherapy with gemcitabine plus S-1 followed by chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic cancer.	Cancer Chemother Pharmacol	66 (3)	527-34	2010

研究成果の刊行に関する一覧表

Ishii H, Furuse J, Okusaka T, <u>Ikeda M</u> , et al. JCOG Gastrointestinal Oncology Study Group.	Phase II Study of Gemcitabine Chemotherapy Alone for Locally Advanced Pancreatic Carcinoma: JCOG0506	Jpn J Clin Oncol	40 (6)	573-9	2010
Soeda A, Morita-Hoshi Y, <u>Ikeda M</u> , et al.	Long-Term Administration of Wilms Tumor-1 Peptide Vaccine in Combination with Gemcitabine Causes Severe Local Skin Inflammation at Injection Sites	Jpn J Clin Oncol	40 (12)	1184-8	2010
Kosuke Ueda, Manabu Muto, Tsutomu Chiba.	A case of esophageal ulcer caused by alendronate sodium tablets	Gastrointest E ndosc.	73(5)	1037-1038	2011
Matsuba H, Katada C, <u>Muto M</u> , et al	Diagnosis of the extent of advanced oropharyngeal and hypopharyngeal cancers by narrow band imaging with magnifying endoscopy	The Laryngoscope	Epub		2011
Ezoe Y, <u>Muto M</u> , et al	Efficacy of Preventive Endoscopic Balloon Dilation for Esophageal Stricture After Endoscopic Resection	J Clin Gastroenterol	45(3)	222-227	2011
Akitake R, Miyamoto S, <u>Muto M</u> , et al	Early Detection of 5-FU-Induced Acute Leukoencephalopathy on Diffusion-Weighted MRI	Jpn J Clin Oncol	41(1)	121-124	2011
Tu Ch, <u>Muto M</u> , et al	Submucosal tumor appearance is a useful endoscopic predictor of early primary-site recurrence after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma	Dis Esophagus	Epub		2010
<u>Muto M</u> , Minashi K, et al	Early detection of superficial squamous cell carcinoma in the head and neck region and esophagus by narrow band imaging: a multicenter randomized controlled trial	J Clin Oncol	28(9)	1566-1572	2010

研究成果の刊行に関する一覧表

Ezoe Y, <u>Muto M</u> , Horimatsu T, et al	Magnifying narrow-band imaging versus magnifying white-light imaging for differential diagnosis of gastric small depressive lesions: a prospective Study	Gastrointest Endosc	71(3)	477-484	2010
Katada C, tanabe S, <u>Muto M</u> , et al	Narrow band imaging for detecting superficial squamous cell carcinoma of the head neck in patients with esophageal squamous cell carcinoma	Endoscopy	42(3)	185-190	2010
Hayashi T, <u>Muto M</u> , et al	Usefulness of Narrow Band Imaging for detecting the primary tumor site in patients with primary unknown cervical lymph node metastasis	Jpn J Clin Oncol	40 (6)	537-541	2010
Fujii S, Yamazaki M, <u>Muto M</u> , et al	Microvascular irregularities are associated with composition of squamous epithelial lesion and correlate with subepithelial invasion of superficial type pharyngeal squamous cell carcinoma	Histopathology	56(4)	510-522	2010
Magolan J, Adams NB, Onozuka H, Hungerford NL, <u>Esumi H</u> , Coster MJ.	Synthesis and Evaluation of Anticancer Natural Product Analogues Based on Angelmarin: Targeting the Tolerance towards Nutrient Deprivation	ChemMedChem	Epub ahead of print		2012
Inazuka F, Sugiyama N, Tomita M, Abe T, Shioi G, <u>Esumi H</u> .	Muscle-specific knockout of NUA1 prevents high-fat diet-induced glucose intolerance	J Biol Chem.	Epub ahead of print		2012
Sakai C, Tomitsuka E, <u>Esumi H</u> , Harada S, Kita K.	Mitochondrial fumarate reductase as a target of chemotherapy: From parasites to cancer cells	Biochim Biophys Acta	Epub ahead of print		2011

研究成果の刊行に関する一覧表

Tanimoto K, Tsuchihara K, Kanai A, Arauchi T, <u>Esumi H</u> , Suzuki Y, Sugano S.	Genome-wide identification and annotation of HIF-1 α binding sites in two cell lines using massively parallel sequencing	Hugo J	4(1-4):	35-48	2011
Bando H, Yoshino T, Tsuchihara K, Ogasawara N, Fuse N, Kojima T, Tahara M, Kojima M, Kaneko K, Doi T, Ochiai A, <u>Esumi H</u> , Ohtsu A.	KRAS mutations detected by the amplification refractory mutation system-Scorpion assays strongly correlate with therapeutic effect of cetuximab	Br J Cancer.	105(3)	403-6	2011
Awale S, Linn T Z, Li F, Tezuka Y, Myint A, Tomida A, Yamori T, <u>Esumi H</u> , Kadota S	Identification of chryso-splenetin from vitex negundo as a potential cytotoxic agent against PANC-1 and a panel of 39 human cancer cell lines (JFCR-39)	Phytother. Res.	25(12)	1770-5	2011
Onozuka H, Tsuchihara K, <u>Esumi H</u> .	Hypoglycemic/hypoxic condition in vitro mimicking the tumor microenvironment markedly reduced the efficacy of anticancer drugs	Cancer Sci.	102(5)	975-82	2011
Bando H, Tsuchihara K, Yoshino T, Kojima M, Ogasawara N, Fukushima H, Ochiai A, Ohtsu A, <u>Esumi H</u> .	Biased Discordance of KRAS Mutation Detection in Archived Colorectal Cancer Specimens Between the ARMS-Scorpion Method and Direct Sequencing	Jpn J Clin Oncol.	41(2)	239-44	2011
Ogasawara N, Bando H, Kawamoto Y, Yoshino T, Tsuchihara K, Ohtsu A, <u>Esumi H</u>	Feasibility and Robustness of Amplification Refractory Mutation System (ARMS)-based KRAS Testing Using Clinically Available Formalin-fixed, Paraffin-embedded Samples of Colorectal Cancers	Jpn J Clin Oncol	41(1)	52-6	2011
TakeshiShinozaki, <u>Ryuichi Hayashi</u> , Mitsuru Ebihara, Masakazu Miyazaki, Hiroyuki Daiko, Masahisa Saikawa, Satoshi Ebihara	Narrow band imaging endoscopy for unknown primary tumor sites of the neck	Head and Neck	Epub ahead of print		2011

研究成果の刊行に関する一覧表

Shimpei Miyamoto, Minoru Sakuraba, Shogo Nagamatsu, <u>Ryuichi Hayashi</u>	Salvage total pharyngolaryngectomy and free jejunum transfer	The Laryngoscope 121(5)P947-95 1	121(5)	947-51	2011
Mitsuhiko Kawashima, <u>Ryuichi Hayashi</u> , Makoto Tahara, Satoko Arahira, Masakazu Miyazaki, Minoru Sakuraba, Sadamoto Zenda, Takeshi Ogino	Prospective trial of chemotherapy-enhanced accelerated radiotherapy for larynx preservation in patients with intermediate-volume hypopharyngeal cancer	Head and Neck	Epub ahead of print		2011
Fujiwara Y, Takatsuka Y, <u>Imoto S</u> , Inaji H, Ikeda T, Akiyama F, Tamura M, Miyoshi K, Iwata H, Mitsuyama S, Noguchi S.	Outcomes of Japanese breast cancer patients treated with pre- and post-operative anastrozole or tamoxifen	Cancer Sci	103	491-6	2012
<u>Imoto S</u> , Isaka H, Sakemura N, Ito H, Imi K, Miyamoto K	Paradigm shift in axilla surgery for breast cancer patients treated with sentinel node biopsy	Breast Cancer	Epub ahead of print		2011
Ohtani S, Kochi M, Ito M, Higaki K, Takada S, Matsuura H, Kagawa N, Hata S, Wada N, Inai K, <u>Imoto S</u> , Moriya T	Radiofrequency ablation of early breast cancer followed by delayed surgical resection - A promising alternative to breast-conserving surgery	Breast	20	431-6	2011
Shiomi A, Ito M, <u>Saito N</u> , Ohue M, Hirai T, Kubo Y, Moriya Y.	Diverting stoma in rectal cancer surgery. A retrospective study of 329 patients from Japanese cancer centers	Int J Colorectal Dis	26	79-87	2011
Yoneyama Y, Ito M, Sugitou M, Kobayashi A, Nishizawa Y, <u>Saito N</u> .	Postoperative Lymphocyte Percentage Influences the Long-term Disease-free Survival Following a Resection for Colorectal Carcinoma	Jpn J Clin Oncol	41(3)	343-7	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

Watanabe K, <u>Saito N</u> , Sugito M, Ito M, Kobayashi A, Nishizawa Y.	Predictive factors for pulmonary metastases after curative resection of rectal cancer without preoperative chemoradiotherapy	Dis Colon Rectum	54(8)	989-98	2011
Kobayashi S, Ito M, Sugito M, Kobayashi A, Nishizawa Y, <u>Saito N</u> .	Association between incisional surgical site infection and the type of skin closure after stoma closure	Surg Today	41(7)	941-5	2011
Nishizawa Y, Fujii S, <u>Saito N</u> , Ito M, Ochiai A, Sugito M, Kobayashi A, Nishizawa Y.	The association between anal function and neural degeneration after preoperative chemoradiotherapy followed by intersphincteric resection	Dis Colon Rectum	54(11)	1423- 9	2011
Shiomi A, Ito M, <u>Saito N</u> , Hirai T, Ohue M, Kubo Y, Takii Y, Sudo T.	The indications for a diverting stoma in low anterior resection for rectal cancer.: a prospective multicentre study of 222 patients from Japanese cancer centers	Colorectal Dis.	13(12)	1384- 9	2011
Nishizawa Y, Ito M, <u>Saito N</u> , Suzuki T, Sugito M, Tanaka T.	Male sexual dysfunction after rectal cancer surgery	Int J Colorectal Dis	26(12)	1541- 8	2011
Hashimoto T, Yamahara N, Okamaoto A, <u>Sasaki H</u> , et al	Cyclin D1 predicts prognosis of advanced serous ovarian cancer	Experimental and Therapeutic Medicine	2(2)	213-9	2011
Motegi M, Tanaka S, Tada H, Sasaki T, Hayashi A, Takano H, <u>Sasaki H</u> .	Comparison of two sampling procedures for diagnosing endometrial carcinoma and hyperplasia: outpatient tissue biopsy versus cytologic examination	J Cytol Histol.	2	118	2011
Ishizuka Y, Shimura M, Ishizaka Y, Tanaka S, Tsugane S, Sasaki T, <u>Sasaki H</u> .	Expression of the Wild Type Rearranged during Transfection Protooncogene in Ovarian Cancer	Jikei Med J	58	57-62	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

Kotake Y, Sasaki T, <u>Sasaki H</u> , Akiyama M, Ochiai K, et al.	Use of localization and activity of thymidine Phosphorylase in human gynecological tumors for predicting sensitivity to pyrimidine antimetabolite therapy : an observational study	J Cytol Histol. 2:121	2	121	2011
Sugimoto K, Hashimoto T, Takahashi E, Saito Y, Haino T, <u>Sasaki H</u> , Kusuhara K, Tanaka T.	Cancellation of in vitro fertilization treatment cycles predicts treatment outcome in female infertility patients aged 40 years or older	Reprod Med Biol	10	179-184	2011
Yanoh K, Hirai Y, Sakamoto A, Aoki D, Moriya T, Hiura M, Yamawaki T, Simizu K, Nakayama H, <u>Sasaki H</u> , Tabata T, Ueda M, Udagawa Y, Norimatsu T.	New Terminology for Intrauterine Endometrial Samples : A group study by the Japanese Society of Clinical Cytology	ACTA CYTOLOGICA	56	233-241	2012
Sofue K, <u>Arai Y</u> , Takeuchi Y, et al.	Safety and efficacy of primary metallic biliary stent placement with tract embolization in patients with massive ascites: a retrospective analysis of 16 patients	J Vasc Interv Radiol.	23	521-7	2012
Tokue H, Takeuchi Y, <u>Arai Y</u> , et al.	Anchoring system-assisted coil tract embolization: a new technique for management of arterial bleeding associated with percutaneous nephrostomy	J Vasc Interv Radiol.	22	1625-9	2011
Tokue H, Takeuchi Y, <u>Arai Y</u> , et al.	Ultrasound-guided thrombin injection for the treatment of an iatrogenic hepatic artery pseudoaneurysm: a case report	J Med Case Reports.	5	518	2011
Tokue H, Takeuchi Y, <u>Arai Y</u> , et al.	Feasibility of externalized peritoneovenous shunt (EPVS) for malignant ascites	World J Surg Oncol.	9	82-	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

<p><u>Arai Y</u>, Inaba Y, Sone M, et al.</p>	<p>Phase I/II study of transjugular transhepatic peritoneovenous venous shunt, a new procedure to manage refractory ascites in cancer patients: Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group 0201</p>	<p>AJR Am J Roentgenol.</p>	<p>196</p>	<p>W621-6</p>	<p>2011</p>
<p>Iguchi T, Idani H, <u>Arai Y</u>, et al.</p>	<p>Hepatic arterial infusion chemotherapy prior to standard systemic chemotherapy in patients with highly advanced unresectable liver metastases from colorectal cancer: a report of three patients</p>	<p>Acta Med Okayama.</p>	<p>65</p>	<p>49-53</p>	<p>2011</p>
<p>Inaba Y, <u>Arai Y</u>, Yamaura H, et al.</p>	<p>Phase II clinical study on stent therapy for unresectable malignant colorectal obstruction (JIVROSG-0206)</p>	<p>Am J Clin Oncol.</p>	<p>35</p>	<p>73-6</p>	<p>2012</p>
<p>Sugawara S, Sone M, <u>Arai Y</u>, et al.</p>	<p>Radiological insertion of Denver peritoneovenous shunts for malignant refractory ascites: a retrospective multicenter study (JIVROSG-0809)</p>	<p>Cardiovasc Intervent Radiol.</p>	<p>34</p>	<p>980-8</p>	<p>2011</p>
<p>Iwasa S, <u>Ikeda M</u>, Okusaka T, Ueno H, Morizane C, Nakachi K, Mitsunaga S, Kondo S, Hagihara A, Shimizu S, Satake M, Arai Y.</p>	<p>Transcatheter Arterial Infusion Chemotherapy with a Fine-powder Formulation of Cisplatin for Advanced Hepatocellular Carcinoma Refractory to Transcatheter Arterial Chemoembolization</p>	<p>Jpn J Clin Oncol.</p>	<p>41(6)</p>	<p>770-5</p>	<p>2011</p>
<p>Suzuki E, Furuse J, <u>Ikeda M</u>, Ishii H, Okusaka T, Nakachi K, Mitsunaga S, Ueno H, Morizane C.</p>	<p>A Phase I/II Study of Combined Chemotherapy with Mitoxantrone and Uracil/Tegafur for Advanced Hepatocellular Carcinoma</p>	<p>Jpn J Clin Oncol.</p>	<p>41(3)</p>	<p>328-33</p>	<p>2011</p>

研究成果の刊行に関する一覧表

Kawashima M, Kohno R, Nakachi K, Nishio T, Mitsunaga S, <u>Ikeda M</u> , Konishi M, Takahashi S, Gotohda N, Arahira S, Zenda S, Ogino T, Kinoshita T.	Dose-Volume Histogram Analysis of the Safety of Proton Beam Therapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Int J Radiat Oncol Biol Phys.	79(5)	1479-86	2011
Kanai F, Yoshida H, Tateishi R, Sato S, Kawabe T, Obi S, Kondo Y, Taniguchi M, Tagawa K, <u>Ikeda M</u> , Morizane C, Okusaka T, Arioka H, Shiina S, Omata M.	A phase I/II trial of the oral antiangiogenic agent TSU-68 in patients with advanced hepatocellular carcinoma	Cancer Chemother Pharmacol.	67(2)	315-24	2011
Tsubasa Watanabe, Shinichi Miyamoto, <u>Manabu Muto</u> , et al	A case of long-term survival of metastatic small round cell tumor treated with multimodal therapy	Oncology Letters	3(1)	30-4	2012
Tomonori Yano, <u>Manabu Muto</u> , et al	Photodynamic therapy as salvage treatment for local failure after chemoradiotherapy in patients with esophageal squamous cell carcinoma: a phase II study	Int J Cancer	Epub ahead of print		2011
Noriatsu Tatematsu, Yasumasa Ezoe, <u>Manabu Muto</u> , et al	Impact of neoadjuvant chemotherapy on physical fitness, physical activity and health-related quality of life of patients with resectable esophageal cancer	Am J Clin Oncol	Epub ahead of print		2011
Takahiro Horimatsu, Shin-ichi Miyamoto, <u>Manabu Muto</u> , et al	Pharmacokinetics of oxaliplatin in a hemodialytic patient treated with modified FOLFOX-6 plus bevacizumab therapy	Cancer Chemother Pharmacol	68(1)	263-6	2011
Yuki Asada, <u>Manabu Muto</u> , et al	Successful Endoscopic Submucosal Dissection for Esophageal Squamous Cell Carcinoma together with a Lipoma	Hepato-Gastroenterology	58 (110-111)	1595-7	2011
<u>Manabu Muto</u> , et al	Long-term outcome of transoral organ-preserving pharyngeal endoscopic resection for superficial pharyngeal cancer	Gastrointest Endosc	74(3)	477-84	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

Yasumasa Ezo, <u>Manabu Muto</u> , et al	Magnifying Narrowband Imaging Is More Accurate than Conventional White-Light Imaging in Diagnosis of Gastric Mucosal Cancer	Gastroenterology	141(6)	2017-25	2011
Yasumasa Ezo, Satoshi Fujii, <u>Manabu Muto</u> , et al	Epidermoid metaplasia of the esophagus: endoscopic feature and differential diagnosis	Hepato-Gastroenterology	58 (107-108)	809-13	2011
<u>Manabu Muto</u> , et al	Differences of image enhancement in image-enhanced endoscopy: narrow band imaging versus flexible spectral imaging color enhancement	J Gastroenterol	46(8)	998-1002	2011
<u>Manabu Muto</u> , et al	Macroscopic Estimation of Submucosal Invasion in the Esophagus	Tec Gastrointest Endosc	13(1)	8-13	2011
Tomonori Yano, <u>Manabu Muto</u> , et al	Long-term results of salvage photodynamic therapy for patients with local failure after chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma	Endoscopy	43(8)	657-63	2011
Kazuhiko Aoyagi, Keiko Minashi, <u>Manabu Muto</u> , et al	Artificially induced epithelial mesenchymal transition in surgical subjects: its implications in clinical and basic cancer research	PLoS ONE	6(4)	e18196	2011
Hiroki Matsuba, Chikatoshi Katada, <u>Manabu Muto</u> , et al	Diagnosis of the extent of advanced oropharyngeal and hypopharyngeal cancers by narrow band imaging with magnifying endoscopy	Laryngoscope	121(4)	753-9	2011
Kosuke Ueda, <u>Manabu Muto</u> , et al	A case of esophageal ulcer caused by alendronate sodium tablets	Gastrointest Endosc	73(5)	1037-8	2011
Yasumasa Ezo, <u>Manabu Muto</u> , et al	Efficacy of preventive endoscopic balloon dilation for esophageal stricture after endoscopic resection	J Clin Gastroenterol	45(3)	222-7	2011
Reiko Akitake, Shin-ichi Miyamoto, <u>Manabu Muto</u> , et al	Early detection of 5-FU-induced acute leukoencephalopathy on diffusion-weighted MRI	Jpn J Clin Oncol	41(1)	121-4	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

Chia-Hung Tu, <u>Manabu Muto</u> , et al	Submucosal tumor appearance is a useful endoscopic predictor of early primary-site recurrence after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma	Dis Esophagus	24(4)	274-8	2011
<u>Zenda S</u> , Matsuura K, Tachibana H et al.	Multicenter phase II study of an opioid-based pain control program for head and neck cancer patients receiving chemoradiotherapy	Radiother Oncol	101	410-4	2011
<u>Zenda S</u> , Kohno R, Kawashima M, et al.	Proton Beam Therapy for unresectable malignancies of the nasal cavity and paranasal sinuses	Int J Radiat Oncol Biol Phys	81	1473-8	2011
<u>Zenda S</u> , Kawashima M, Nishio T, et al.	Proton Beam Therapy as a Non-surgical Approach to Mucosal Melanoma of the Head and Neck: A Pilot Study	Int J Radiat Oncol Biol Phys	81	135-9	2011
Sato K, <u>Miyashita M</u> , et al	Family member perspectives of deceased relatives' end-of-life options on admission to a palliative care unit in Japan	Support Care Cancer	20(5)	893-900	2012
Igarashi A, <u>Miyashita M</u> , et al	A scale for measuring feelings of support and security regarding cancer care in a region of Japan: A potential new endpoint of cancer care	J Pain Symptom Manage	43(2)	218-25	2012
Yamagishi A, Morita T, <u>Miyashita M</u> , et al	Providing palliative care: the views and exposure of community general practitioners and district nurses in Japan	J Pain Symptom Manage	43(1)	59-67	2012
Deno M, <u>Miyashita M</u> , et al	The relationships between complicated grief, depression, and alexithymia with the seriousness of complicated grief in Japanese general population	J Affect Disord	135	122-7	2011
Kinoshita S, <u>Miyashita M</u> .	Development of a scale for "difficulties felt by ICU nurses providing end-of-life care" (DFINE): A survey study	Intensive & Critical Care Nursing	27(4)	202-10	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

Hirai K, Kudo T, Akiyama M, Matoba M, Shiozaki M, Yamaki T, Yamagishi A, <u>Miyashita M</u> , et al	Public Awareness, Knowledge of Availability, and Readiness for Cancer Palliative Care Services: A Population-Based Survey across Four Regions in Japan	J Palliat Med	14(8)	918-22	2011
Yoshida S, Hirai K, Morita T, Shiozaki M, <u>Miyashita M</u> , et al	Experience with Prognostic Disclosure of Families of Japanese Patients with Cancer	J Pain Symptom Manage	41(3)	594-603	2011
Kudou N, Taniguchi A, Sugimoto K, <u>Esumi H</u> , et.al.	Synthesis and antitumor evaluation of arctigenin derivatives based on antiausterity strategy.	Eur J Med Chem			in press
Owada S, Shimoda Y, Tsuchihara K, <u>Esumi H</u> .	Critical role of H ₂ O ₂ generated by NOX4 during cellular response under glucose deprivation.	Plos One 2012	8(3)		in press
Kami K, Fujimori T, <u>Esumi H</u> , et.al.	Metabolomic profiling of lung and prostate tumor tissues by capillary electrophoresis time-of-flight mass spectrometry.	Metabolomics	(9)	444-53	2012
Yamagata Y, Aikou S, Fukushima T, <u>Esumi H</u> , et.al.	Loss of HGF activator inhibits foveolar hyperplasia induced by oxyntic atrophy without altering gastrin levels.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	303(11)	G1254-61	2012
Sakai C, Tomitsuka E, <u>Esumi H</u> , et.al.	Mitochondrial fumarate reductase as a target of chemotherapy: From parasites to cancer cells.	Biochim Biophys Acta	1820(5)	643-51	2012
Inazuka F, Sugiyama N, <u>Esumi H</u> , et.al.	Muscle-specific knock-out of NUA family SNF1-like kinase 1 (NUAK1) prevents high-fat diet-induced glucose intolerance.	J Biol Chem	287(20)	16379-89	2012
Magolan J, Adams NB, Onozuka H, <u>Esumi H</u> , et.al.	Synthesis and evaluation of anticancer natural product analogues based on angelmarin: targeting the tolerance towards nutrient deprivation.	ChemMedChem	7(5)	766-70	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

Tomitsuka E, Kita K, <u>Esumi H.</u>	An anticancer agent, pyrvinium pamoate inhibits the NADH-fumarate reductase system—a unique mitochondrial energy metabolism in tumor microenvironments.	J Biochem.	152(2)	171-83	2012
Kawamoto Y, Tsuchihara K, <u>Esumi H.</u> , et.al.	KRAS mutations in primary tumours and post-FOLFOX metastatic lesions in cases of colorectal cancer.	Br J Cancer	107(2)	340-4	2012
Kawashima M, <u>Hayashi R.</u> , Tahara M, Arahira S, Miyazaki M, Sakuraba M, Zenda S, Ogino T	Prospective trial of chemotherapy-enhanced accelerated radiotherapy for larynx preservation in patients with intermediate-volume hypopharyngeal cancer.	Head and Neck	34(10)	1363-1368	2012
Kano S, Homma A, <u>Hayashi R.</u> , Kawabata K, Yoshino K, Iwae S, Hasegawa Y, Nibu K, Kato T, Shiga K et.al.	Salvage surgery for recurrent oropharyngeal cancer after chemoradiotherapy	Int J Clin Oncol			Epub ahead of print
Shinozaki T, <u>Hayashi R.</u> , Ebihara M, Miyazaki M, Tomioka T	Mucosal Defect Repair with a polyglycolic Acid Sheet	JJCO	43(1)	33-36	2012
Minashi K, Kojima T, Ito M, Satake H, Yajima Y, Yoda Y, Ikematsu H, Oono Y, <u>Hayashi R.</u> , Onozawa M, Ohtsu A et.al.	Treatment Strategy for Superficial Pharyngeal Squamous Cell Carcinoma Synchronously Combined with Esophageal Cancer	Oncology	84(1)	57-64	2012
<u>Imoto S.</u> , Isaka H, Sakemura N, Ito H, Imi K, Miyamoto K	Paradigm shift in axilla surgery for breast cancer patients treated with sentinel node biopsy	Breast Cancer	19	104-109	2012
<u>Imoto S.</u> , Kamma H, Tvedskov TF, Kroman N, Jensen MB, Audisio RA, Cserni G et.al.	International Multicenter Tool to Predict the Risk of Nonsentinel Node Metastases in Breast Cancer	J Natl Cancer Inst (Epub ahead of print)	04	1888-1896	2012
Nishizawa Y, Kobayashi A, <u>Saito N.</u> , Nagai K, Sugito M, Ito M, Nishizawa Y.	Surgical management of small bowel metastases from primary carcinoma of the lung	Surg Today	42(3)	233-237	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

Nakajima K, Takahashi S, <u>Saito N</u> , Kotaka M, Konishi M, Gotohda N, Kato Y, Kinoshita T.	Predictive Factors for Anastomotic Leakage after Simultaneous Resection of Synchronous Colorectal Liver Metastasis	J Gastrointest Surg	16(4)	821-827	2012
Murata S, Koga Y, Moriya Y, Akasu T, Fujita S, Yamoto S, Kakugawa Y, Ohtake Y, <u>Saito N</u> , Matsumura Y.	Application of miRNA expression analysis on exfoliated colonocytes for diagnosis of colorectal cancer	Gastrointestinal Cancer: Targets and Therapy	2	11-18	2012
Koda T, Nakajima K, Minagawa N, Nishizawa Y, Kobayashi A, Sugito M, <u>Saito N</u> . et.al.	Postoperative chylous ascites after colorectal cancer surgery	Surg Today	42	724-728	2012
Nishizawa Y, Fujii S, <u>Saito N</u> , Ito M, Nakajima K, Ochiai A, Sugito M, Kobayashi A, Nishizawa Y.	Differences in tissue degeneration between preoperative chemotherapy and preoperative chemoradiotherapy for colorectal cancer	Int J Colorectal Dis	27	1047-1053	2012
Fujita S, Akasu T, Mizusawa J, <u>Saito N</u> , Kinugasa Y, Kanemitsu Y, Ohue M, Fujii S, Shiozawa M, Yamaguchi T,et.al.	Postoperative morbidity and mortality after mesorectal excision with and without lateral lymph node dissection for clinical stage II or stage III lower rectal cancer (JCOG0212): results from a multicentre, randomised controlled, non-inferiority trial	Lancet Oncol	13(6)	616-621	2012
Nishizawa Y, <u>Saito N</u> , Fujiib S, Ito M, Sugito M, Kobayashi A, Nishizawa Y.	Association between Anal Function and Therapeutic Effect after Preoperative Chemoradiotherapy followed by Intersphincteric Resection	Dig Surg	29	439-445	2012
Nakajima K, Sugito M, Nishizawa Y, Ito M, Kobayashi A, Nishizawa Y, Suzuki T, Tanaka T, Etsunaga T, <u>Saito N</u> .	Rectoseminal vesicle fistula as a rare complication after low anterior resection: a report of three cases.	Surg Today	43	574-579	2012
Kunito S, Tkakura S, Nagata C, Saito M, Yanaihara N, Yamada K, Okamoto A, <u>Sasaki H</u> , Oshiai K, Tanaka T.	Long-term survival in patients with clear cell adenocarcinoma of ovary treated with irinotecan hydrochloride plus cisplatin therapy as first-line chemotherapy	J. Obstet. Gynaecol. Res	38 : 12	1367-75	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

Ikeda M, <u>Arai Y</u> , Park SJ, et.al.	Prospective study of transcatheter arterial chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma: An Asian cooperative study between Japan and Korea.	J Vasc Interv Radiol	24	490-500	2013
Hashimoto R, Sofue K, <u>Arai Y</u> , et.al.	Successful balloon-occluded retrograde transvenous obliteration for bleeding duodenal varices using cyanoacrylate.	World J Gastroenterol	19	951-4	2013
Sato Y, Watanabe H, <u>Arai Y</u> , et.al.	Tumor response evaluation criteria for HCC (hepatocellular carcinoma) treated using TACE (transcatheter arterial chemoembolization): RECIST (response evaluation criteria in solid tumors) version 1.1 and mRECIST (modified RECIST): JIVROSG-0602.	J Med Case Reports	118	16-22	2013
Sofue K, Takeuchi Y, Arai Y, et.al.	Life-threatening cerebral edema caused by acute occlusion of a superior vena cava stent.	Cardiovasc Intervent Radiol	36	272-5	2013
Sato Y, Inaba Y, <u>Arai Y</u> , et.al.	Malignant inferior vena cava syndrome and congestive hepatic failure treated by venous stent placement.	J Vasc Interv Radiol	23	1377-80	2012
Osuga K, <u>Arai Y</u> , Anai H, et.al.	Phase I/II multicenter study of transarterial chemoembolization with a cisplatin fine powder and porous gelatin particles for unresectable hepatocellular carcinoma: Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group Study 0401.	J Vasc Interv Radiol	23	1278-85	2012
<u>Arai Y</u> , Ohtsu A, Sato Y, et.al.	Phase I/II study of radiologic hepatic arterial infusion of fluorouracil plus systemic irinotecan for unresectable hepatic metastases from colorectal cancer: Japan Clinical Oncology Group Trial 0208-DI.	J Vasc Interv Radiol	23	1261-7	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

<u>Arai Y</u>	Clinical trials of interventional oncology.	Int J Clin Oncol	17	301-5	2012
<u>Ikeda M</u> , Ioka T, Ito Y, Yonemoto N, Nagase M, Yamao K, Miyakawa H, Ishii H, Furuse J, Sato K, Sato T, Okusaka T. A	Multicenter Phase II Trial of S-1 With Concurrent Radiation Therapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer.	Int J Radiat Oncol Biol Phys	85(1)	163-9	2013
Shimada K, Esaki M, <u>Ikeda M</u> , Mitsunaga S, Kinoshita T, Konishi M, Takahashi S, Okusaka T, et.al.	Treatment outcome for systemic chemotherapy for recurrent pancreatic cancer after postoperative adjuvant chemotherapy.	Pancreatology	12(5)	428-33	2012
Terashima T, Morizane C, Hiraoka N, Tsuda H, Tamura T, Shimada Y, Kaneko S, Kushima R, Ueno H, Kondo S, <u>Ikeda M</u> , Okusaka T.	Comparison of Chemotherapeutic Treatment Outcomes of Advanced Extrapulmonary Neuroendocrine Carcinomas and Advanced Small-Cell Lung Carcinoma.	Neuroendocrinology	96(4)	324-32	2012
Ito T, Okusaka T, <u>Ikeda M</u> , Igarashi H, Morizane C, Nakachi K, Tajima T, Kasuga A, Fujita Y, Furuse J.	Everolimus for Advanced Pancreatic Neuroendocrine Tumours: A Subgroup Analysis Evaluating Japanese Patients in the RADIANT-3 Trial.	Jpn J Clin Oncol	42(10)	903-11	2012
Okusaka T, Ueno H, <u>Ikeda M</u> , Takezako Y, Morizane C.	Phase I study of TAC-101, an oral synthetic retinoid, in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma.	Cancer Sci	103(8)	1524-30	2012
Imoto A, Mitsunaga S, Inagaki M, Aoyagi K, Sasaki H, <u>Ikeda M</u> , Nakachi K, Higuchi K, Ochiai A.	Neural invasion induces cachexia via astrocytic activation of neural route in pancreatic cancer.	Int J Cancer	131(12)	2795-807	2012
Morizane C, Okusaka T, Ueno H, Kondo S, <u>Ikeda M</u> , Furuse J, Shinichi O, Nakachi K, Mitsunaga S, Kojima Y, Suzuki E, Ueno M, Yamaguchi T.	Phase I/II study of gemcitabine as a fixed dose rate infusion and S-1 combination therapy (FGS) in gemcitabine-refractory pancreatic cancer patients.	Cancer Chemother Pharmacol	69(4)	957-64	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

Yukawa Y, <u>Muto M</u> , et.al.	Elimination of esophageal multiple precancerous lesions by chemotherapy: potential chemoprevention of metachronous multiple cancer development after curative treatment.	Esophagus	9	203-209	2012
Miyamoto S, Mashimo Y, <u>Muto M</u> , et.al.	Cerebral air embolism caused by chemoradiotherapy for esophageal cancer.	J Clin Oncol	30(25)	e237-e238	2012
Yukawa Y, <u>Muto M</u> , et.al.	Combination of ADH1B*2/ALDH2*2 polymorphisms alters acetaldehyde-derived DNA damage in the blood of Japanese alcoholics.	Cancer Sci	103(9)	1651-1655	2012
Horimatsu T, <u>Muto M</u> , et.al.	Tissue damage of the canine normal esophagus by photoactivation with taraporfin sodium (Laserphyrin): A preclinical study.	PLoS ONE	7(6)	e38308	2012
Yano T, <u>Muto M</u> , et.al.	Phase I study of photodynamic therapy using talaporfin sodium and diode laser for local failure after chemoradiotherapy for esophageal cancer.	Radiation Oncol	7(1)	113	2012
Hori K, Miyamoto S, <u>Muto M</u> , et.al.	Stability of Acetaldehyde-derived DNA adduct in vitro.	Biochem and Biophys Res Com	423(4)	642-646	2012
<u>Muto M</u> , et.al.	Usefulness of endoscopic radial incision and cutting method for refractory esophagogastric anastomotic stricture (with video).	Gastrointest Endosc	75(5)	965-972	2012
Oyama T, Uramoto H, <u>Muto M</u> , et.al.	Cytochrome P450 in non-small cell lung cancer related to exogenous chemical metabolism.	Front Biosci	S4	1539-1546	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

Tomonori Yano, <u>Manabu Muto</u> , et.al.	Photodynamic therapy as salvage treatment for local failure after chemoradiotherapy in patients with esophageal squamous cell carcinoma: a phase II study.	Int J Cancer	131(5)	1228-1234	2012
<u>Zenda S</u> , Ishii S, Ichihashi T, et.al.	A Dermatitis Control Program (DeCoP) for head and neck cancer patients receiving radiotherapy: a prospective phase II study.	International Journal of Clinical Oncology			Epub ahead of print
Hojo H, <u>Zenda S</u> , Sasaki K. et.al.	Impact of early radiological response evaluation on radiotherapeutic outcomes in the patients with nasal cavity and paranasal sinus malignancies.	J Radiat Res.	53(5)	704-9	2012
Okano S, Tahara M, <u>Zenda S</u> , et.al.	Induction chemotherapy with docetaxel, cisplatin and S-1 followed by proton beam therapy concurrent with cisplatin in patients with T4b nasal and sinonasal malignancies.	Jpn J Clin Oncol.	42(8)	691-6	2012
Satake H, Yoshino T, <u>Zenda S</u> , et.al.	Early clinical outcomes of anal squamous cell carcinoma treated with concurrent chemoradiotherapy with 5-Fluorouracil plus mitomycin C in Japanese patients: experience at a single institution.	Jpn J Clin Oncol.	42(9)	861-4	2012
Asai M, Shimizu K, Ogawa A, Akechi T, <u>Kinoshita H</u> , Uchitomi Y, et.al.	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients.	Psychooncology	20(12)	995-1001	2012
Asai M, <u>Kinoshita H</u> Uchitomi Y, et.al.	Psychological states and coping strategies after bereavement among spouses of cancer patients: a quantitative study in Japan.	Support Care Cancer	20(12)	3189-203	2012
Esumi H.	S'ils n'ont pas de pain, qu'ils mangent de la brioche	American Journal of Physiology Cell Physiology	306	C320-321	2014

研究成果の刊行に関する一覧表

Kami K, Fujimori T, Sato H, Sato M, Yamamoto H, Ohashi Y, Sugiyama N, Ishihama Y, Onozuka H, Ochiai A, Esumi H, Soga T, and Tomita M.	Metabolomic profiling of lung and prostate tumor tissues by capillary electrophoresis time-of-flight mass spectrometry	Metabolomics : Official journal of the Metabolomic Society	9	444-453	2013
.Kudou N, Taniguchi A, Sugimoto K, Matsuya Y, Kawasaki M, Toyooka N, Miyoshi C, Awale S, Dibe DF, Esumi H, Kadota S, and Tezuka Y.	Synthesis and antitumor evaluation of arctigenin derivatives based on antiausterity strategy	European journal of medicinal chemistry	60	76-88	2013
Owada S, Shimoda Y, Tsuchihara K, and Esumi H.	Critical role of H2O2 generated by NOX4 during cellular response under glucose deprivation	PloS one	8(3)	e56628	2013
Ueda JY, Athikomkulchai S, Miyatake R, Saiki I, Esumi H, and Awale S	(+)-Grandifloracin, an antiausterity agent, induces autophagic PANC-1 pancreatic cancer cell death	Drug design, development and therapy	8	39-47	2014
Suzuki M., Makinoshima H., Matsumoto S., Suzuki A., Mimaki S., Matsushima K., Yo K., Goto K., Suzuki Y., Ishii G., Ochiai A., Tsutak K., Shibata T., Kohno T., EsumiH., Tsuchihara K	Identification of a lung adenocarcinoma cell line with CCDC6-RET fusion gene and the effect of RET inhibitors in vitro and in vivo	Cancer Science	104(7)	896-903	2013
Suzuki A, Mimaki S, Yamane Y, Kawase A, Matsushima K, Suzuki M, Goto K, Sugano S, Esumi H, Suzuki Y, Tsuchihara K.	Identification and characterization of cancer mutations in Japanese lung adenocarcinoma without sequencing of normal tissue counterparts	PLoS One	8(9)	e73484	2013
Nasuno T, Mimaki S, Okamoto M, Esumi H, Tsuchihara K.	Effect of a poly(ADP-ribose) polymerase-1 inhibitor against esophageal squamous cell carcinoma cell lines.	Cancer Science	105(2)	202-210	2014

研究成果の刊行に関する一覧表

Awale S, Kato M, Dabwe DF, Li F, Miyoshi C, Esumi H, Kadota S, Tezuka Y.	Antiausterity activity of arctigenin enantiomers: Importance of (2R, 3R)-absolute configuration.	Nat. Prod Commun	9(1)	79-82	2014
Yamashita T, Uehara S, Udagawa N., Li F., Kadota S., Esumi H., Kobayashi Y., Takahashi N.	Arctigenin inhibits osteoclast differentiation and function by suppressing both calcineurin-dependent and osteoblastic cell-dependent NFATc1 pathways	PloS one	9(1)	e85878	2014
Takeshi Shinozaki, <u>Ryuichi Hayashi</u> , Mitsuru Ebihara, Masakazu Miyazaki, Toshifumi Tomioka	Mucosal Defect Repair with a polyglycolic Acid Sheet	JJCO	43(1)	33-36	2013
Kazuhiro Kaneko, Tomonori Yano, Keiko Minashi, Takashi Kojima, Miki Ito, Hironaga Satake, Yoko Yajima, Yusuke Yoda, Hiroaki Ikematsu, Yasuhiro Oono, <u>Ryuichi Hayashi</u> , Masakatsu Onozawa, Atsushi Ohtsu	Treatment Strategy for Superficial Pharyngeal Squamous Cell Carcinoma Synchronously Combined with Esophageal Cancer	Oncology	84(1)	57-64	2013
Fujii S, Uryu H, Akashi K, Suzuki K, Yamazaki M, Tahara M, <u>Hayashi R</u> , Ochiai A.	Clinical significance of KRAS gene mutation and epidermal growth factor receptor expression in Japanese patients with squamous cell carcinoma of the larynx, oropharynx and hypopharynx	Int J Clin Oncol	13(3)	454-463	2013

研究成果の刊行に関する一覧表

Meretoja TJ, Audisio RA, Heikkilä P S, Bori R, Sejben I, Regitnig P, Luschin-Ebengreuth G, Zgajnar J, Perhavec A, Gazic B, Lázár G, Takács T, Kóvári B, Saidan ZA, Nadeem RM, Castellano I, Sapino A, Bianchi S, Vezzosi V, Barranger E, Lousquy R, Arisio R, Foschini MP, Imoto S, Kamma H, Tvedskov TF, Jensen MB, Cserni G, Leidenius MH.	International multicenter tool to predict the risk of four or more tumor-positive axillary lymph nodes in breast cancer patients with sentinel node macrometastases.	Breast Cancer Res Treat	138(3)	817-827	2013
Hojo T, Kinoshita T, Imoto S, Shimizu C, Isaka H, Ito H, Imi K, Wada N, Ando M, Fujiwara Y	Use of the neo-adjuvant exemestane in post-menopausal estrogen receptor-positive breast cancer: a randomized phase II trial (PTEX46) to investigate the optimal duration of preoperative endocrine therapy.	Breast	22(3)	263-267	2013
Nakajima K, Sugito M, Nishizawa Y, Ito M, Kobayashi A, Nishizawa Y, Suzuki T, Tanaka T, Etsunaga T, Saito	Rectoseminal vesicle fistula as a rare complication after low anterior resection: a report of three cases.	Surg Today	43	574-579	2013
Yokota M, Kojima M, Nomura S, Nishizawa Y, Kobayashi A, Ito M, Ochiai A, Saito N.	Clinical Impact of Elastic Laminal Invasion in Colon Cancer: Elastic Laminal Invasion-Positive Stage II Colon Cancer Is a High-Risk Equivalent to Stage III	Dis Colon & Rectum			2014 impress
Sone M, Arai Y, Okamoto D, et al.	Percutaneous catheter and port placement for hepatic arterial infusion chemotherapy: catheter placement from subclavian artery.	J Vasc Interv Radiol	25(4)	577	2014

研究成果の刊行に関する一覧表

Sofue K, Takeuchi Y, Arai Y, et al.	Reply to Letter re: Anticoagulant Therapy in Oncologic Patients Undergoing Venous Stenting for Superior Vena Cava Syndrome and Other Interventional Procedures.	Cardiovasc Intervent Radiol	Nov 23. [Epub ahead of print]			2013
Sofue K, Takeuchi Y, Arai Y, et al.	Infusion of 50 % glucose solution to occlude an intrahepatic portosystemic venous shunt before percutaneous transhepatic portal embolization: report of a case.	Surg Today.	Oct 4. [Epub ahead of print]			2013
Sofue K, Arai Y, Takeuchi Y, et al.	Flow confirmation study for central venous port in oncologic outpatient undergoing chemotherapy: evaluation of suspected system-related mechanical complications.	Eur J Radiol.	82	e691-6		2013
Ikeda M, Okusaka T, Arai Y, et al.	A multi-institutional phase II trial of hepatic arterial infusion chemotherapy with cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombosis.	Cancer Chemother Pharmacol	72(2)	463-70		2013
Aramaki T, Arai Y, Inaba Y, et al.	Phase II study of percutaneous transesophageal gastrotubing for patients with malignant gastrointestinal obstruction; JIVROSG-0205.	J Vasc Interv Radiol				
Ikeda M, Arai Y, Park SJ, et al.	Prospective study of transcatheter arterial chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma: an Asian cooperative study between Japan and Korea.	J Vasc Interv Radiol.	24	490-50		2013
Hashimoto R, Sofue K, Arai Y, et al.	Successful balloon-occluded retrograde transvenous obliteration for bleeding duodenal varices using cyanoacrylate.	World J Gastroenterol.	19(6)	951-4		2013

研究成果の刊行に関する一覧表

Sato Y, Watanabe H, Arai Y, et al. 11 8(1):16-22, 2013	Tumor response evaluation criteria for HCC (hepatocellular carcinoma) treated using TACE (transcatheter arterial chemoembolization): RECIST (response evaluation criteria in solid tumors) version 1.1 and mRECIST (modified RECIST): JIVROSG-0602.	Ups J Med Sci.	118(1)	16-22	2013
<u>Ikeda M</u> , Ioka T, Ito Y, Yonemoto N, Nagase M, Yamao K, Miyakawa H, Ishii H, Furuse J, Sato K, Sato T, Okusaka T.	A Multicenter Phase II Trial of S-1 With Concurrent Radiation Therapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer.	Int J Radiat Oncol Biol Phys	85 (1)	163-9	2013
Mitsunaga S, <u>Ikeda M</u> , Shimizu S, Ohno I, Furuse J, Inagaki M, Higashi S, Kato H, Terao K, Ochiai A	Serum levels of IL-6 and IL-1 β can predict the efficacy of gemcitabine in patients with advanced pancreatic cancer	Br J Cancer.	108 (10)	2063-9	2013
Ueno H, Ioka T, <u>Ikeda M</u> , Ohkawa S, Yanagimoto H, Boku N, Fukutomi A, Sugimori K, Baba H, Yamao K, Shimamura T, Sho M, Kitano M, Cheng AL, Mizumoto K, Chen JS, Furuse J, Funakoshi A, Hatori T, Yamaguchi T, Egawa S, Sato A, Ohashi Y, Okusaka T, Tanaka M.	Randomized Phase III Study of Gemcitabine Plus S-1, S-1 Alone, or Gemcitabine Alone in Patients With Locally Advanced and Metastatic Pancreatic Cancer in Japan and Taiwan: GEST Study.	J Clin Oncol	31 (13)	1640-8	2013
Otsuka T, Morizane C, Nara S, Ueno H, Kondo S, Shimada K, Kosuge T, <u>Ikeda M</u> , Hiraoka N, Okusaka T.	Gemcitabine in Patients With Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm With an Associated Invasive Carcinoma of the Pancreas.	Pancreas	42	889-92	2013
Yoshiyuki Yukawa, <u>Manabu Muto</u> , et al	Impairment of aldehyde dehydrogenase 2 increases accumulation of acetaldehyde-derived DNA damage in the esophagus after ethanol ingestion.	Am J Cancer Res.		in press	2014

研究成果の刊行に関する一覧表

Yoko Mashimo, <u>Manabu Muto</u> , et al	Salvage photodynamic therapy is an effective and safe treatment for patients with local failure after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma.	Journal of Cancer Therapy (JCT)		in press	2014
Seiji Ishikawa, <u>Manabu Muto</u> , et al	Phosphatidylcholine with arachidonic acid was increased in the submucosal microinvasive region of hypopharyngeal carcinoma.	Cancer science		in press	2014
Takeshi Setoyama, <u>Manabu Muto</u> , et al	Multimodal endoscopic treatment for delayed severe esophageal stricture caused by incomplete stent removal. Dis Esophagus.	Dis Esophagus	27(2)	112-115	2014
Shinya Yamada, <u>Manabu Muto</u> , et al	An efficient diagnostic strategy for small, depressed early gastric cancer with magnifying narrow-band imaging: a post-hoc analysis of a prospective randomized controlled trial.	Gastrointest Endosc	79(1)	55-63	2014
Osamu Kikuchi, <u>Manabu Muto</u> , et al	Narrow-band Imaging for the Head and Neck Region and the Upper Gastrointestinal Tract.	Jpn J Clin Oncol	43(5)	458-465	2013
<u>Manabu Muto</u>	Endoscopic diagnostic strategy of superficial esophageal squamous cell carcinoma.	Dig Endosc	25(Suppl 1)	1-6	2013
Kohei Takizawa, <u>Manabu Muto</u> , et al	A Phase II Clinical Trial of Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Cancer of Undifferentiated Type: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1009/1010.	Jpn J Clin Oncol	43(1)	87-91	2013
Chikatoshi Katada, <u>Manabu Muto</u> , et al	Surveillance after endoscopic mucosal resection or endoscopic submucosal dissection for esophageal squamous cell carcinoma.	Digestive Endosc	25(Suppl 1)	39-43	2013
<u>Zenda S</u> , Ishii S, Ichihashi T et al.	A Dermatitis Control Program (DeCoP) for head and neck cancer patients receiving radiotherapy: a prospective phase II study.	Int J Clin Oncol	18(2)	350-55	2013

研究成果の刊行に関する一覧表

<u>Zenda S.</u>	Strontium-89 (Sr-89) Chloride in the treatment of various cancer patients with multiple bone metastases.	Int J Clin Oncol	in press		2013
Mikoshiha N, Miyashita M, Sakai T, Tateishi R, Koike K.	Depressive symptoms after treatment in hepatocellular carcinoma survivors: prevalence, determinants and impact on health-related quality of life.	Psychooncology	22	2347-2353	2013
Imura C, Morita T, Kato M, Akizuki N, <u>Kinoshita H</u> , Shirahige Y, Suzuki S, Takebayashi T, Yoshihara R, Eguchi K	How and Why Did a Regional Palliative Care Program Lead to Changes in a Region? A Qualitative Analysis of the Japan OPTIMStudy	J Pain Symptom Manage	S0885-39 24(13)		2013
Sasahara T, Watakabe A, Aruga E, Fujimoto K, Higashi K, Hisahara K, Hori N, Ikenaga M, Izawa T, Kanai Y, <u>Kinoshita H</u> , Kobayakawa M, Kobayashi K, Kohara H, Namba M, Nozaki-Taguchi N, Osaka I, Saito M, Sekine R, Shinjo T, Suga A, Tokuno Y, Yamamoto R, Yomiya K, Morita T.	Assessment of Reasons for Referral and Activities of Hospital Palliative Care Teams Using a Standard Format: A Multicenter 1000 Case Description	J Pain Symptom Manage	S0885-39 24(13)		2013
Morita T, Sato K, Miyashita M, Akiyama M, Kato M, Kawagoe S, <u>Kinoshita H</u> , Shirahige Y, Yamakawa S, Yamada M, Eguchi K.	Exploring the perceived changes and the reasons why expected outcomes were not obtained in individual levels in a successful regional palliative care intervention trial: an analysis for interpretations.	Support Care Cancer	21(12)	3393-402	2013
Asai M, Akizuki N, Fujimori M, Shimizu K, Ogawa A, Matsui Y, Akechi T, Itoh K, Ikeda M, Hayashi R, Kinoshita T, Ohtsu A, Nagai K, <u>Kinoshita H</u> , Uchitomi Y.	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients.	Psychooncology.	22(5)	995-1001	2013

研究成果の刊行に関する一覧表

Zenda S, Nakagami Y, Toshima M, Arahira S, Kawashima M, Matsumoto Y, Kinoshita H, Satake M, Akimoto T.	strontium-89 (Sr-89) chloride in the treatment of various cancer patients with multiple bone metastases.	Int J Clin Oncol.				2013
Tsuchihara K.	RET-targeting molecular stratified non-small-cell lung cancers.	Translational Lung Cancer Res.	2	463-5		2013
Nasuno T et al.	Effect of a poly(ADP-ribose) polymerase-1 inhibitor against esophageal squamous cell carcinoma cell lines.	Cancer Sci	105	202-10		2014
Suzuki A et al	Identification and characterization of cancer mutations in Japanese lung adenocarcinoma without sequencing of normal tissue counterparts.	PLoS One	8	e73484		2013
Suzuki M et al	Identification of a lung adenocarcinoma cell line with CCDC6-RET fusion gene and the effect of RET inhibitors in vitro and in vivo.	Cancer Sci	104	896-903		2013

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
伊藤雅昭、角田祥之、甲田貴丸、齋藤典男	診断と治療 A. 大腸がん診断 大腸がんにおけるPET/CT診断	中郡聡夫、木下平、齋藤典男、西村光世編	消化器外科の基本手術手技、	中外医学社	東京	2010.	118-21
齋藤典男	診断と治療 B. 大腸がん治療 直腸がんに対する治療方針	中郡聡夫、木下平、齋藤典男、西村光世編、	消化器外科の基本手術手技	中外医学社	東京	2010	128-30
齋藤典男	手術 低位前方切除、ハルトマン手術	中郡聡夫、木下平、齋藤典男、西村光世編	消化器外科の基本手術手技	中外医学社	東京	2010	158-67
伊藤雅昭、齋藤典男	手術 肛門近傍の下部直腸がんに対する手術 - 腹会陰式直腸切断術と内肛門括約筋切除を伴う直腸切除術 -	中郡聡夫、木下平、齋藤典男、西村光世編	消化器外科の基本手術手技	中外医学社	東京	2010	168-84
佐々木寛	広汎子宮全摘術(神経温存) 准広汎子宮全摘術(子宮動脈からの尿管枝を温存する術式) 婦人科癌手術におけるリンパ浮腫の予防の試み	落合和徳 青木大輔	婦人科がん低侵襲手術	メディカルレビュー社	東京	2012	20-23 30-33 62-65
佐々木寛	産婦人科実地医科における予防対策・成人女性のワクチン接種,HPV Insights	小西郁生	子宮頸がんトータルマネジメント	(株)メディカルレビュー社	東京		2014 in press

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
林 隆一	化学放射線治療後遺残、再発症例に対する救済手術	日本気管食道科学会 会報	61(2)	111	2010
林 隆一	耳鼻咽喉科疾患の診療に関するガイドライン-解釈と有効な使い方- 頭頸部癌診療ガイドライン	JOHNS	26(5)	767-9	2010
篠崎 剛, 林 隆一	中・下咽頭におけるNBIの有用性	ENTONI	113	124-8	2010
井本 滋	センチネルリンパ節生検と腋窩リンパ節郭清	コンセンサス癌治療	9	76-7	2010
井本 滋, 菅間 博, 和田 徳昭	「悪性腫瘍の術中病理診断を効果的に活用するどこを検索すべきか、どう対応すべきか」乳癌	臨床外科	66	454-6	2011
井本 滋	ラジオアイソトープ(RI)法を用いた乳癌センチネルリンパ節生検手技	手術	65	409-12	2011
伊藤雅昭、齋藤典男、山本聖一郎、他	大腸癌術後フォローアップにおける経済効果の評価	大腸疾患NOW		187-95	2010
伊藤雅昭、齋藤典男	腹腔鏡家内肛門括約筋切除術(腹腔鏡下ISR)、	Digestive Surgery NOW、下部消化管の腹腔鏡下手術	9	88-106	2010
伊藤雅昭、齋藤典男	直腸癌手術における肛門温存(7)下部直腸癌に対する肛門温存手術後の機能評価、	臨床消化器内科	25(1)	63-72	2010
伊藤雅昭、角田祥之、甲田貴丸、齋藤典男	大腸癌におけるPET/CT検査の意義、	臨床外科	65(2)	224-30	2010
中嶋健太郎、小林昭広、甲田貴丸、齋藤典男、他	痔瘻癌15例の臨床病理学的検討、	日本大腸肛門病学会雑誌	63	346-58	2010
伊藤雅昭、齋藤典男	特集 消化管再建法 - 合併症ゼロへの工夫 - .腸切除後の再建法、6. ISRにおける再建法	手術	64(10)	1517-23	2010

研究成果の刊行に関する一覧表

西澤雄介、伊藤雅昭、小林昭広、杉藤正典、齋藤典男、	腹腔鏡下手術 横行結腸切除術、	臨床外科	65(11)	312-18	2010
西澤祐吏、伊藤雅昭、甲田貴丸、齋藤典男、他	腹腔鏡下直腸癌手術における前壁剥離の工夫、	臨床外科	65(12)	1581-5	2010
佐々木寛.	婦人科がん術後下肢リンパ浮腫を予防する鍵は後腹膜開放と大腿ソケイ上リンパ節温存.	日本リンパ学会機関誌	30(2)	131-2	2010
飯田泰志、佐々木寛.	リンパ浮腫に関する新たな検討と試み.	産科と婦人科	77(9)	1083-88	2010
佐々木寛、飯田泰志.	下肢リンパ浮腫予防手術. 59(8):1123-28.2010	産婦人科の実際	59(8)	1123-28	2010
山田恭輔、岡本愛光、矢内原臨、佐々木寛、他	卵巣癌治療における新たな展開再発卵巣癌に対する腫瘍減量手術.	日本婦人科腫瘍学会雑誌	28(3)	396-402	2010
井本 滋, 菅間 博, 和田徳昭	「悪性腫瘍の術中病理診断を効果的に活用する -どこを検索すべきか、どう対応すべきか-」乳癌	臨床外科	66	454-6	2011
井本 滋	ラジオアイソトープ(RI)法を用いた乳癌センチネルリンパ節生検手技	手術	65	409-12	2011
井本 滋	術前化学療法とセンチネルリンパ節生検	臨床外科	66	882-5	2011
井本 滋	「進歩する癌転移診断 - 外科臨床はどう変わるのか」乳癌	臨床外科	66	1312-6	2011
伊東 大樹, 井本 滋	治療検査(治療モニタリングと腫瘍マーカー)	治療	93	1242-5	2011
井本 滋	センチネルリンパ節生検について	治療	93	1074-6	2011

研究成果の刊行に関する一覧表

齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介	下部直腸癌に対する周術期（術前・術後）化学放射線療法の有用性、大腸癌 - 最新の研究の動向 - 、 .大腸癌の治療戦略放射線療法	日本臨床	69(3)	500-4	2011
西澤祐史、藤井誠志、齋藤典男、伊藤雅昭、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、中嶋健太郎、甲田貴丸、錦織英知	ISR術前化学放射線療法における術後肛門機能に関する組織学的要因	癌の臨床	56(8)	575-8	2011
甲田貴丸、伊藤雅昭、齋藤典男、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、西澤祐史、中嶋健太郎	術前放射線化学療法のISR術後肛門機能へ与える影響	癌の臨床	56(8)	579-84	2011
齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介	直腸癌に対する低位前方切除術	手術	65(6)	905-12	2011
齋藤典男、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、杉藤正典	直腸癌に対する肛門温存手術	日外会誌	112(5)	318-24	2011
佐々木寛、佐々木徹、多田春江、飯田泰志、武石明精	婦人科癌術後の下肢リンパ浮腫の危険要因と後腹膜大腿ソケイ部でのリンパ管静脈吻合術の有効性	日本マイクロサ - ジャリ - 学会会誌	24-3	240-7	2011
高野浩邦、河西十九三、早田篤子、立花美津子、石塚康夫、茂木真、小竹譲、生水真紀夫、佐々木寛、田中忠夫	子宮頸がん検診へのベセスダシステム2001導入による不適正検体の頻度の実際とその推移	日本臨床細胞学会雑誌	50-3	158-62	2011
池田公史	ソラフェニブの副作用対策（手足症候群・下痢・高血圧など）	医学のあゆみ	236	711-5	2011
池田公史	臨床で分子標的薬を使用する際のポイント 肝細胞癌	Prog. Med.	31	2607-13	2011
森田達也、野末よし子、花田芙蓉子、宮下光令、鈴木聡、木下寛也、白髭豊、江口研二	地域対象の緩和ケアプログラムによる医療福祉従事者の自覚する変化: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7巻1号	121-35	2012
林 隆一	高齢者に対する外科治療 頭頸部	日気食会報	65(5)	362-397	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

井本 滋	乳癌センチネルリンパ節生検	外科	74	699-703	2012
井本 滋	センチネルリンパ節転移陽性乳癌における腋窩治療	腫瘍内科	10	122-125	2012
井本 滋	乳癌治療の現状と展望	杏林医学会雑誌	43	145-150	2013
伊藤雅昭、齋藤典男、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、	腹腔鏡下大腸切除術 腹腔鏡下ISR	消化器外科	35(1)	67-79	2012
小林昭広、伊藤雅昭、西澤雄介、小林昭広、杉藤正典、齋藤典男、	腹腔鏡下大腸癌手術に伴う偶発症の検討	日本腹部救急医学会雑誌	32(1)	37-42	2012
神山篤史、齋藤典男、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、	進行直腸癌における肛門温存手術	手術	66(2)	179-184	2012
伊藤雅昭、齋藤典男、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、	腹腔鏡下ISR	手術	66(6)	901-908	2012
菅野伸洋、伊藤雅昭、中嶋健太郎、櫻庭 実、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、錦織英知、神山篤史、齋藤典男	超低位前方切除あるいはISR術後の吻合部狭窄	消化器外科	35(11)	1647-1654	2012
野口幸子、佐藤佳世、武隈桂子、高橋一彰、森本恵爾、小曾根浩一、田部宏、小竹譲、高野浩邦、佐々木寛 他	巨大卵巣腫瘍に対して当院で施行している小切開No Leak法の検討	千葉産科婦人科学会雑誌	6 : 1	10-14	2012
池田公史、光永修一、清水怜、大野泉、高橋秀明、奥山浩之、桑原明子、奥坂拓志	進行肝細胞癌に対するソラフェニブの現状と今後の展望	日本消化器病学会雑誌	109(8)	1346-54	2012
全田貞幹	頭頸部扁平上皮癌に対する新しい治療戦略 放射線治療の新しいモダリティー	JOHNS	28(8)	1185-1189	2012
森田達也、木下寛也、他	地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が地域連携のために同職種・他職種に勧めること	Palliat Care Res	7(1)	163-171	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

木下寛也、森田達也、 他	がん専門病院が地域緩和ケアの向上のために取り組んでいることと課題	癌と化学療法	39(10)	1527-1532	2012
木澤義之、木下寛也、 森田達也、他	地域で統一した緩和ケアマニュアル・パンフレット・評価シートの評価：OPTIM-study	Palliat Care Res	7(2)	172-184	2012
森田達也、木下寛也、 他	地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が最も大きいと体験すること：OPTIM-study	Palliat Care Res	7(2)	209-217	2012
木下寛也、森田達也、 他	がん専門病院緩和ケア病棟の運営方針が地域の自宅がん死亡率に及ぼす影響	Palliat Care Res	7(2)	348-353	2012
森田達也、木下寛也、 他	異なる算出方法による地域での専門緩和ケアサービス利用数の比較	Palliat Care Res	7(2)	374-381	2012
森田達也、木下寛也、 他	患者所持型情報共有ツール「わたしのカルテ」の評価：OPTIM-study	Palliat Care Res	7(2)	382-388	2012
東陽一郎、木下寛也	新しい局面を迎えた肺癌診療《肺癌診療にまつわるトータルサポート 治療とケア》緩和ケアの実際	内科	110(5)	771-774	2012
井本 滋	ラジオ波焼灼治療の現状	臨床と研究	90 (10)	1311-1315	2013
齋藤典男、酒井泰之、 駒井好信、伊藤雅昭、 小林昭広、西澤雄介、 杉藤正典、	局所高度進行直腸癌に対する外科治療 a)隣接臓器合併症を伴う拡大切除	外科	75(3)	250-256	2013
山崎信義、杉藤正典、 神山篤史、西澤雄介、 小林昭広、伊藤雅昭、 齋藤典男、	回腸導管作成術後に空腸導管症候群様症状を来した1例	日本大腸肛門病学会誌	66	353-357	2013
齋藤典男、伊藤雅昭、 小林昭広、西澤雄介、 杉藤正典、横田 満、 佐藤 雄	長期観察からみたI SRの意義	癌の臨床	59	673-679	2013

研究成果の刊行に関する一覧表

赤木由人、伊藤雅昭、齋藤典男、白水和雄、前田耕太郎、金光幸秀、幸田圭史、長谷和生、山中竹春、森谷宜皓、	肛門近傍の下部直腸癌に対する肛門括約筋部分温存術の多施設共同第 相試験	癌の臨床	59	643-649	2013
河野眞吾、齋藤典男、合志健一、塚田祐一郎、山崎信義、西澤雄介、小林昭広、伊藤雅昭、	長期成績を左右する手術手技のポイント - 腹腔鏡手術によるISR	臨床外科	69(3)	314-317	2013
佐々木寛	婦人科がん術後下肢リンパ浮腫の予防手術	がんのリハビリテーションセミナー 新・リンパ浮腫研修			in press
高野浩邦, 佐々木寛.	【プロメテウス 婦人科がん最新医療】ロボット支援手術	産婦人科の実際	62巻12号	2071-2076	2013
佐々木寛.	液状化検体細胞診加算	検査と技術	41巻12号	1187-1189	2013
小曾根浩一, 佐々木寛.	【細胞診の基礎から実践へ】細胞診断の基本 検診の現状(婦人科、呼吸器)	病理と臨床	31巻臨増	87-92	2013
全田貞幹 秋元哲夫	鼻・副鼻腔悪性腫瘍に対する陽子線治療	頭頸部癌	39(4)	402-4	2013
全田貞幹	局所進行頭頸部扁平上皮癌に対する国内第 相試験	頭頸部癌 FRONTIER	1(2)	30-2	2013
全田貞幹	放射線治療による有害事象軽減のための支持療法	JOHNS	29(6)	1051-4	2013
飯野京子, 綿貫成明, 小山友里江, 栗原美穂, 市川智里, 岡田教子, 上杉英生, 浅沼智恵, 大幸宏幸, 藤田武郎, 鈴木恭子, 和田千穂子, 森美知子, 久部洋子, 矢ヶ崎香, 小松浩子	胸部食道がん術後外来患者に対する看護ケアの分析.	Palliat Care Research			2014 in press
綿貫成明, 飯野京子, 小山友里江, 栗原美穂, 市川智里, 岡田教子, 上杉英生, 浅沼智恵, 大幸宏幸, 藤田武郎, 鈴木恭子, 和田千穂子, 森美知子, 久部洋子, 矢ヶ崎香, 小松浩子.	胸部食道がん術後患者の退院後の生活における困難の実態	Palliat Care Research	9(1)	129 - 136	2014 in press